

令和5年度認知症初期集中支援チーム活動実績

【市川市の概要(令和6年3月31日現在)】 引用元:市川市住民基本台帳及び市川市介護保険システムより抽出

●人口：494,095人

●65歳以上人口：106,266人（全人口に占める割合 21.51%）

市民の4.65人に1人が65歳以上

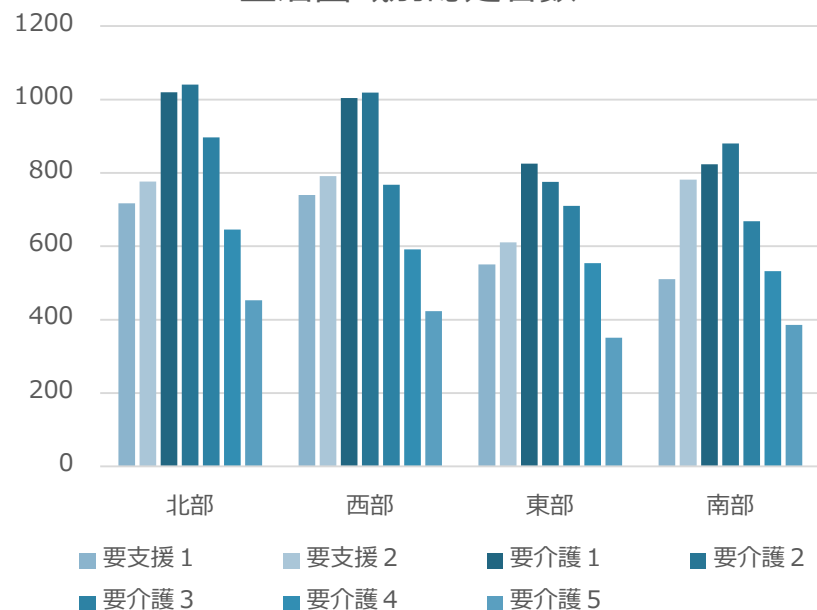
前期高齢者(65～74歳):46,566人（全人口に占める割合 9.42%）

後期高齢者(75歳以上):59,700人（全人口に占める割合 12.08%）

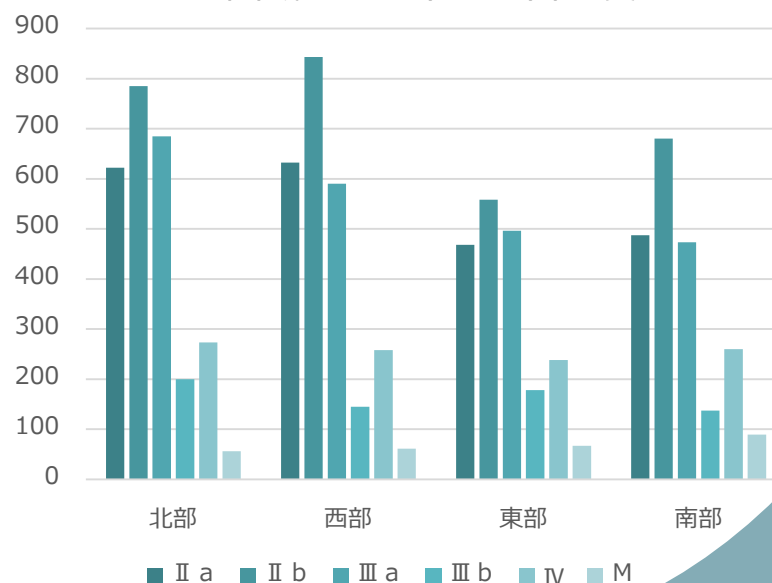
●要介護認定者数：19,849人

認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱa以上の方:9,281人

生活圏域別認定者数



生活圏域別 日常生活自立度



1)活動実績年次推移

年度	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5
支援対象者	28人	26人	23人	25人	29人
訪問回数	316回	227回	127回	232回	196回
1人あたり平均訪問回数	11回	9回	6回	9回	7回

2)令和5年度実績(R5年4月1日～R6年3月31日現在)

生活圏域		北・西・東部	南部	計
チーム数		1チーム	1チーム	2チーム
チーム員数		7人	4人	11人
	医師	2人	1人	3人
	専門職	5人	3人	8人
支援対象者（実数）		29人	0人	29人
	新規	25人	0人	25人
	継続	4人	0人	4人
支援終了者		20人	0人	20人
訪問回数（延数）		196回	0回	196回
1人あたり平均訪問回数		7回	—	7回
初回訪問までの平均日数		11.2日	—	11.2日
平均支援期間		141.3日	—	141.3日

支援期間は3～4か月
で終了するか、
支援期間の6か月まで
継続するケースが多い

【R5年度支援ケース概要】

	地区	タイトル	年齢	性別
1	菅野・須和田	認知機能の低下に不安を感じつつも一人で生活をしてきたが、 生活に支障 が出てきて、家族が心配している	92	女性
2	市川第二	認知機能の低下と意欲の低下が見られ「死にたい」と話す	87	女性
3	八幡	民生委員等の活動で物忘れが目立つようになり、また両下肢の皮膚炎症が悪化するも専門医の受診ができていない	72	女性
4	国分	日中独居、愛猫とともに穏やかに過ごしているものの、 家事等が困難 となり夫は不安を抱いている	64	女性
5	信篤・二俣	近隣住民からゴミ、悪臭の苦情 から発覚した認知機能低下と意欲低下が疑われる独居男性	78	男性
6	大柏	急激に認知症状が進み、内服管理や清潔保持などが困難になり、 日常生活に支障 をきたしている独居女性	75	女性
7	菅野・須和田	精神症状の悪化(不安・妄想)と認知機能低下が疑われ、 介護者が対応に苦慮 している	78	女性
8	市川第二	認知症状を抱え、平衡機能障害により転倒を繰り返している。89歳夫からのDVあるが、自宅で過ごしたい	81	女性
9	市川東部	三男が本人の身の回りのサポートをしている、日中近隣の公園で過ごす独居女性	84	女性
10	市川第一	同居の息子が出ていき独居となった認知機能の低下が見られる男性	88	男性
11	市川第二	救急搬送を繰り返しているが、 支援者の介入に拒否的 な為、生活実態の把握が難しい独居女性	87	女性
12	国分	尿失禁や数字の認識に困っており、医療受診したいが、交通費がない等計画的にお金を使えない生活保護を受けている独居女性	64	女性
13	曾谷	半年前に仕事を無断欠勤し解雇され、俳諧や排泄の失敗など 生活全般に支障 をきたしている独居男性	53	男性
14	菅野・須和田	生活を担っていた姉が入院し独居となるも、他社との関わりを拒否し生活状況、精神状態が把握できない	75	女性
15	曾谷	金銭管理や身体的な面で生活に不安があるも、 他者からの支援を拒否 している90代夫婦	92	男性
16	曾谷		91	女性
17	市川東部	受診日を忘れるなど認知機能の低下がみられるが、日常生活が自立している独居女性	81	女性
18	市川東部	キーパソン不在で認知機能低下のため、 金銭管理が困難 な高齢独居女性	81	女性
19	大柏	数か月で急激な認知機能低下がみられ、長女が疲弊しているが、 他者の介入を強く拒否 しサービス導入が困難	75	女性
20	市川東部	物盗られ妄想があり、金銭管理ができず、 受診拒否 のある独居女性	86	女性
21	大柏	他県での 万引きで警察が介入 したことを機に25歳の孫と同居した、認知症状のある未受診の女性	72	女性
22	曾谷	工事業者と契約したことを忘れるなど認知機能の低下が心配だが、 支援を必要とせず、医療にも繋がっていない夫婦	86	男性
23	曾谷		86	女性
24	国分	妄想や暴言等がひどく、 家族が対応に苦慮 している77歳女性	77	女性
25	曾谷	認知機能低下が目立ち、 自宅はゴミ屋敷状態であるが、病識がない 独居男性	63	男性
26	真間	介護保険を申請したこと自体を忘れる等近時記憶が難しいが、日常生活は概ね自立している独居女性	90	女性
27	市川第二	認知機能が低下し、物が片付けられず、銀行の通帳や印鑑など 大切なものを保管できないゴミ屋敷状態 の独居女性	95	女性
28	市川第二	金銭管理を含め生活全般に課題があるが、 本人の困り感がなく支援拒否 がある独居女性	81	女性
29	市川第一	金銭管理や医療受診が困難だが、 支援を拒否 している独居女性	90	女性

3) 支援者の状況①

【依頼時の状況】

n=29

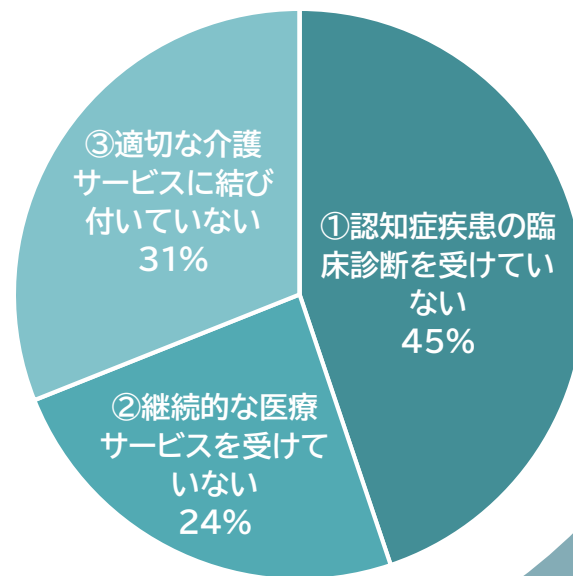
	男性	女性	計
1) 医療・介護サービスを受けていない、または中断している	6人	23人	29人
①認知症疾患の臨床診断を受けていない	4人	9人	13人
②継続的な医療サービスを受けていない	1人	6人	7人
③適切な介護サービスに結び付いていない	1人	8人	9人
④介護サービスが中断している	0人	0人	0人
2) 医療・介護サービスを受けているが認知症の行動・心理症状（BPSD）が顕著なため、対応に苦慮している	0人	0人	0人

【行動・心理症状(BPSD)(延数)】

n=29

妄想	4人
昼夜逆転	4人
暴言・暴行	3人
介護への抵抗	7人
徘徊	3人
不潔行為	5人
自発性の低下	7人
抑うつ	1人
その他	6人

認知症の臨床診断を受けていない人が多い

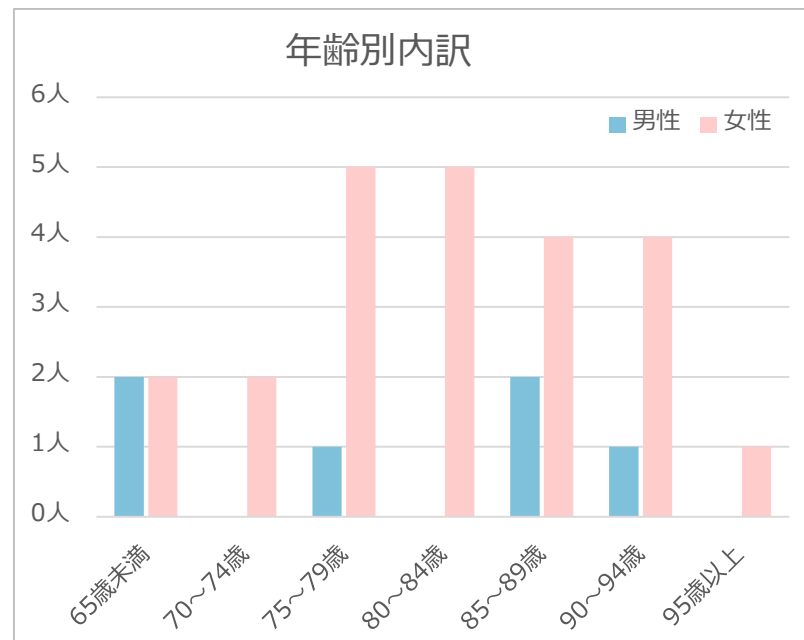


3) 支援者の状況②

【年齢区分】

n = 29

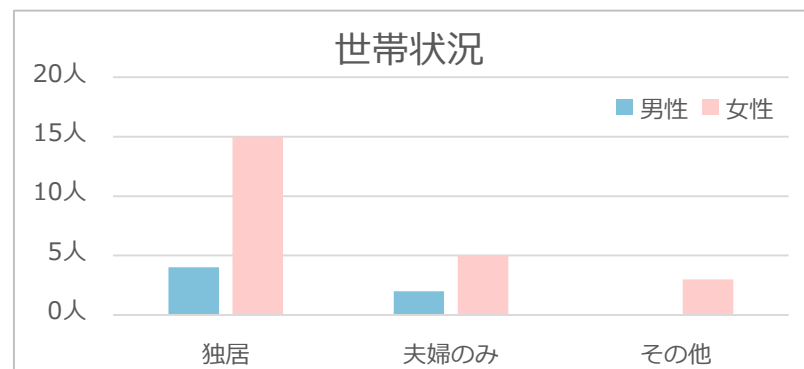
	男性	女性	総計
65歳未満	2人	2人	4人
70～74歳		2人	2人
75～79歳	1人	5人	6人
80～84歳		5人	5人
85～89歳	2人	4人	6人
90～94歳	1人	4人	5人
95歳以上		1人	1人
総計	6人	23人	29人



【世帯構成】

n = 29

	男性	女性	総計
独居	4人	15人	19人
夫婦のみ	2人	5人	7人
その他		3人	3人
総計	6人	23人	29人

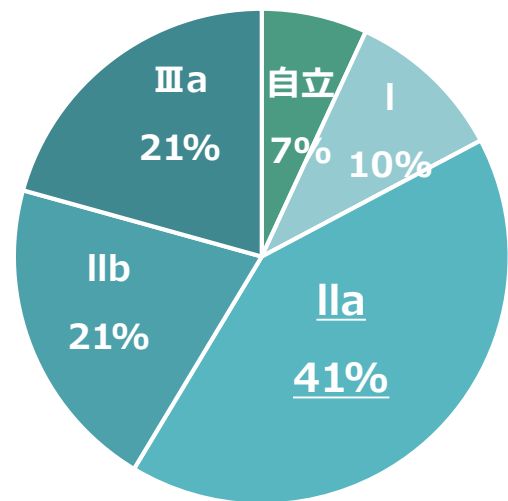


女性、独居高齢者が多い

3) 支援者の状況③

【認知症高齢者の日常生活自立度（把握時）】 n=29

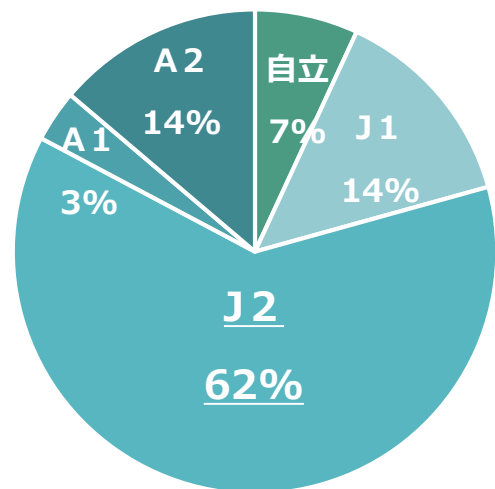
	男性	女性	計
自立	0人	2人	2人
I	2人	1人	3人
IIa	2人	10人	12人
IIb	1人	5人	6人
IIIa	1人	5人	6人
計	6人	23人	29人



【障がい高齢者の日常生活自立度（把握時）】 n=29

	男性	女性	計
自立		2人	2人
J1	2人	2人	4人
J2	4人	14人	18人
A1		1人	1人
A2		4人	4人
計	6人	23人	29人

日常生活に支障が出始め、周囲からの相談につながる一方で、身体的には、近所への外出が可能な方が多い



4) 医療の状況

【把握時】

n=29

把握時	男性	女性	総計
通院あり	2人	10人	12人
以前通院していた	2人	3人	5人
通院なし	2人	10人	12人
計	6人	23人	29人

チームの介入により、医療へつながった
ケースは5割(支援中除く)

n=17

終了時	男性	女性	総計
できた	2人	3人	5人
できなかった	0人	5人	5人
支援中	2人	5人	7人
計	2人	8人	17人

【終了時】

n=20

終了時	男性	女性	総計
できた	4人	11人	15人
できなかった	0人	5人	5人
計	4人	16人	20人

5) 認知症の診断

【把握時】

n=29

	男性	女性	計
診断あり	0人	3人	3人
診断なし	6人	20人	26人
計	6人	23人	29人

チームの介入により、認知症の診断へ
つながったケースは6割弱(支援中除く)



n=26

	男性	女性	計
診断あり	3人	7人	10人
診断なし	1人	7人	8人
支援中	2人	6人	8人
計	6人	20人	26人

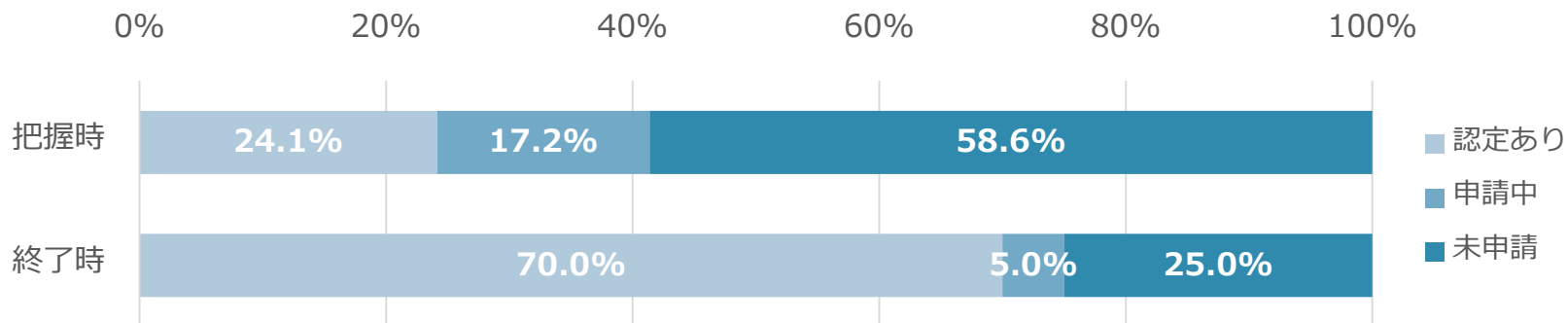
【終了時】

n=20

	男性	女性	計
診断あり	3人	9人	12人
診断なし	1人	7人	8人
計	4人	16人	20人

6)介護保険の状況①

	男性		女性		計	
	把握時	終了時	把握時	終了時	把握時	終了時
認定あり	1人	3人	6人	11人	7人	14人
要支援1	0人	0人	1人	1人	1人	1人
要支援2	0人	1人	0人	0人	0人	1人
要介護1	1人	1人	3人	4人	4人	5人
要介護2	0人	0人	1人	3人	1人	3人
要介護3	0人	1人	1人	2人	1人	3人
要介護4	0人	0人	0人	0人	0人	0人
要介護5	0人	0人	0人	1人	0人	1人
申請中	1人	1人	4人	0人	5人	1人
未申請	4人	0人	13人	5人	17人	5人
計	6人	4人	23人	16人	29人	20人

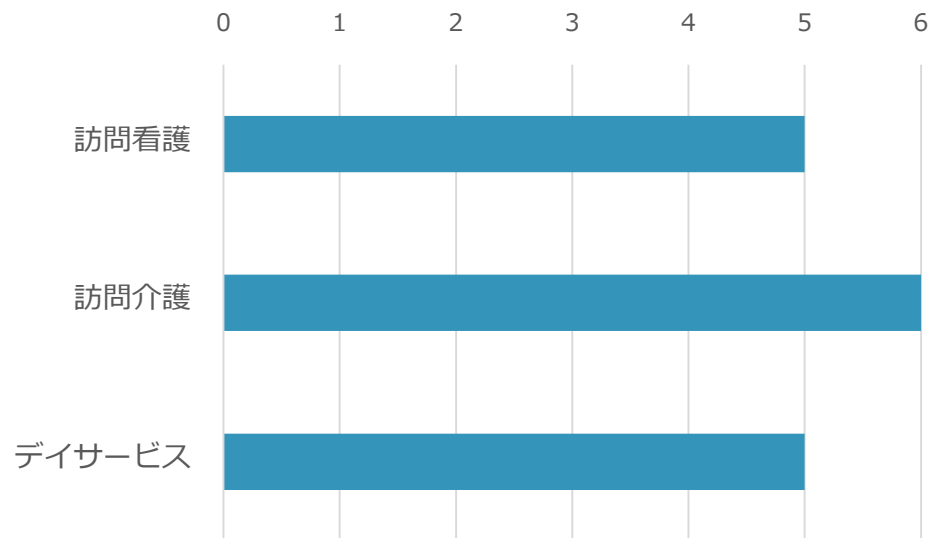


把握時半数以上が未申請だが、チームの介入により7割が介護認定へ

6)介護保険の状況②

	男性		女性		計	
	把握時	終了時	把握時	終了時	把握時	終了時
サービス利用	0人	3人	1人	9人	1人	12人
利用なし	6人	1人	22人	7人	28人	8人
計	6人	4人	23人	16人	29人	20人

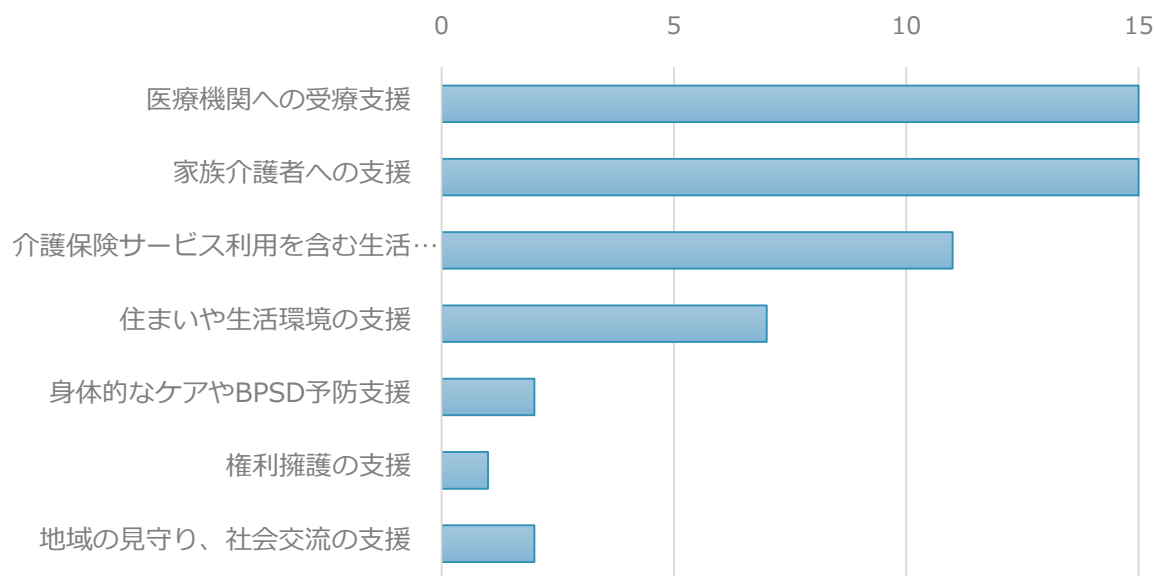
利用された介護サービス



内服管理のための訪問看護や
ヘルパーによる生活支援など
自宅内での支援
外出機会のためのデイサービス
など

7) チーム集中支援の状況

	延数
医療機関への受療支援	15
家族介護者への支援	15
介護保険サービス利用を含む生活支援	11
住まいや生活環境の支援	7
身体的なケアやBPSD予防支援	2
権利擁護の支援	1
地域の見守り、社会交流の支援	2



一番多いのは
医療機関への受療支援と
家族への支援、次いで
介護サービス利用への支援

8)チーム支援結果

【支援結果】

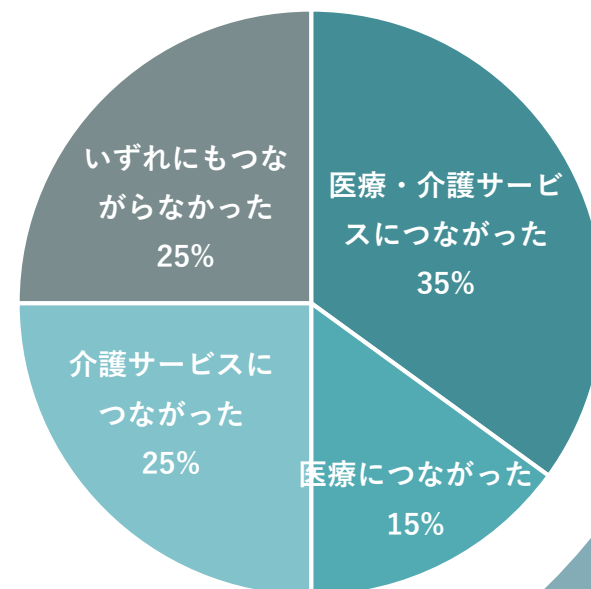
n=20

支援結果	男性	女性	計
医療・介護サービスにつながった	2人	5人	7人
医療につながった		3人	3人
介護サービスにつながった	2人	3人	5人
いずれにもつながらなかった		5人	5人
計	4人	16人	20人

【引継ぎ状況】

n=20

	男性	女性	計
在宅継続	3人	15人	18人
入院	1人	1人	2人
計	4人	16人	20人



チームの介入により医療・介護サービス両方、
またはいずれかに繋がった方は約75%

9)生活のしづらさの改善(第9期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の数値目標)

n=20

	男性	女性	計
改善	4人	10人	14人
維持	0人	3人	3人
悪化	0人	0人	0人
判定不可	0人	3人	3人
計	4人	16人	20人

日常生活での、ADL・IADLを介入前後で評価
チーム介入により、改善・維持できている

参考:生活のしづらさ評価項目

ADL	IADL	
食事	買い物	日々の生活の金銭管理
排泄	食事の支度	預貯金の出し入れ
入浴	食事の片付け	公共料金の支払い
着替え	掃除	書類の作成
身だしなみ	整理整頓	医療受診
	洗濯	服薬管理
	訪問者の対応	

【チームにおける課題】

- 人事異動により職員の入替わりがあり、チーム員の入替わりが多い。
- 介入期間が決まっているため、高齢者サポートセンターとの連携・引継ぎが重要。
- 介護保険申請や後見人申し立てのためなど、認知症診断のための受療支援がチームの主活動となっている。

チームへの依頼が来る前の
早期の段階での相談体制づくり
が必要

